

一神教は危険か？

— 宗教間対話の可能性 —

2014.6.11 **水** 開演▶13:30~17:00
開場▶13:00

会場：西南コミュニティーセンター

入場無料

事前申し込み
不要

一神教は排他的で非寛容であり、それゆえ危険であるが、多神教は他者を尊重し寛容であり、それゆえ平和的である、という言説がまことしやかに喧伝されています。しかし、果たしてそうなのでしょうか。排他的な原理主義はどの宗教においても起こりうるものです。それに対して、互いを尊重し、差異を認めつつ共生を目指す動きが一神教の中でも広がりつつあります。

そもそも一神教とは何か、一神教的宗教は他の宗教の存在をどう捉えているのか、どんな場合に宗教は危険になるのか、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教を研究する第一線の学者が宗教の枠を超えて対話します。

講師

ユダヤ教

ジョナサン・マゴネット

JONATHAN MAGNET

レオ・ベック大学元学長

1942年ロンドン生まれ。医師として働いた後、レオ・ベック大学で学び、1971年ラビ(ユダヤ教教師)任職。ヘブライ大学およびハイデルベルク大学に留学、哲学博士号取得。1974年よりレオ・ベック大学で教え、1985-2005年学長。イスラエルとドイツの諸都市で客員教授を歴任。この40年余り、宗教間対話を積極的に推進。著書に「A Rabbi Reads the Bible」, 「Talking to the Other」, 「Netsuke Nation」, 「ラビの聖書解釈—ユダヤ教とキリスト教の対話」など。

キリスト教

寺園 喜基

YOSHIKI TERAZONO

西南学院名誉顧問



1939年鹿児島生まれ。1962年に西南学院大学神学部を卒業し、九州大学大学院で学んだ後、ドイツ・ヴッパータル大学、ボン大学に留学、神学博士号取得。九州大学の教員を経て、1998年から2010年まで西南学院大学神学部教授。西南学院院長、西南学院理事長を歴任。現在、九州大学名誉教授、西南学院名誉顧問、福岡城西キリスト教会協力牧師。専門は現代キリスト教思想。著書に『バルト神学の射程』『途上のキリスト論—「バルト=ボンヘッファー」の今日的意味』など。

イスラム教

四戸 潤弥

JUNYA SHINOHE



同志社大学神学部教授

1952年郡山生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了、東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。カール国立大学イスラム研究・法学部卒業。現在、同志社大学神学部・神学研究科教授、一神教学際研究センター研究員。専門はイスラム法、およびアラビア語文法。現在、日本文化の中でのイスラム受容のありかた、イスラムの日本語での表現伝達方法に関心がある。著書に『イスラム世界とつきあう法』『現代アラビア語入門講座』全2巻など。

司会・進行 須藤 伊知郎 西南学院大学神学部教授
ICHIRO SUDO

通訳 小林 洋一 西南学院大学名誉教授
YOICHI KOBAYASHI

リディア・ハンキンス 西南学院宗教主事
LYDIA HANKINS

主催: **西南学院**

後援: 福岡市・福岡市教育委員会

問い合わせ先:

〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92

西南学院100周年事業推進室

TEL: 092-823-3186

E-mail: sw100th@seinan-gu.ac.jp

